

平成 17 年 11 月 10 日

各 位

会社名 東邦チタニウム株式会社
代表者名 代表取締役社長 野上 一治
コード番号 5727 (東証第二部、大証第二部)
問合せ先 経営企画部企画担当部長 松原 浩
(電話番号 0467 - 82 - 0742)

チタンインゴット及びスポンジチタンの生産能力増強構想について

最近のチタン需要は、次期民間航空機開発の進展等に伴う航空機向け需要の増加や化学プラント、海水淡水化プラント向け等の一般工業向け需要の増加、民生品向けにおける用途分野の拡大など多くの分野において、安定的かつ急速な伸びを示しております。

当社は、このような状況を受け今後の需要予測を慎重に検討した結果、将来に亘って供給責任を果たすためには、チタンインゴット及びスポンジチタンの双方について、生産能力を引き上げる必要があると判断いたしました。この判断のもと、下記のとおり生産能力増強の構想をまとめましたので、お知らせいたします。

なお、今回発表する内容は構想の概要であり、今後実行が決定した段階で詳細についてお知らせいたします。

当社は、本構想の実現を通じ、「世界最強のチタン総合メーカー」を目指してまいります。

記

1. 能力増強の概要

	チタンインゴット	スポンジチタン
増強前生産能力	9,000 (t/年)	15,000 (t/年)
増強後生産能力	16,000 (t/年)	22,000 (t/年)
能力増強分 ()内は増強率	7,000 (t/年) (+78%)	7,000 (t/年) (+47%)
着工時期(予定)	2006年度上期	2006年度上期から段階的に着工
完成時期(予定)	2007年度末	2011年度
投資額	約50億円	未定
立地	北九州市(新日本製鐵(株)八幡製鐵所内)の方向で検討中	現茅ヶ崎工場内
増強内容等	大型EB炉(注)1炉新設	還元・電解工程の段階的増強

(注)当社はVAR炉及びEB炉の2タイプの溶解炉を保有しておりますが、EB炉はVAR炉に比べてより多くのチタンスクラップを原料として再利用できるメリットがあります。今後チタン需要の増加に伴ってスクラップ発生量も増加することが見込まれ、資源の有効活用を図るという観点から今回導入する溶解炉はEB炉とする予定であります。

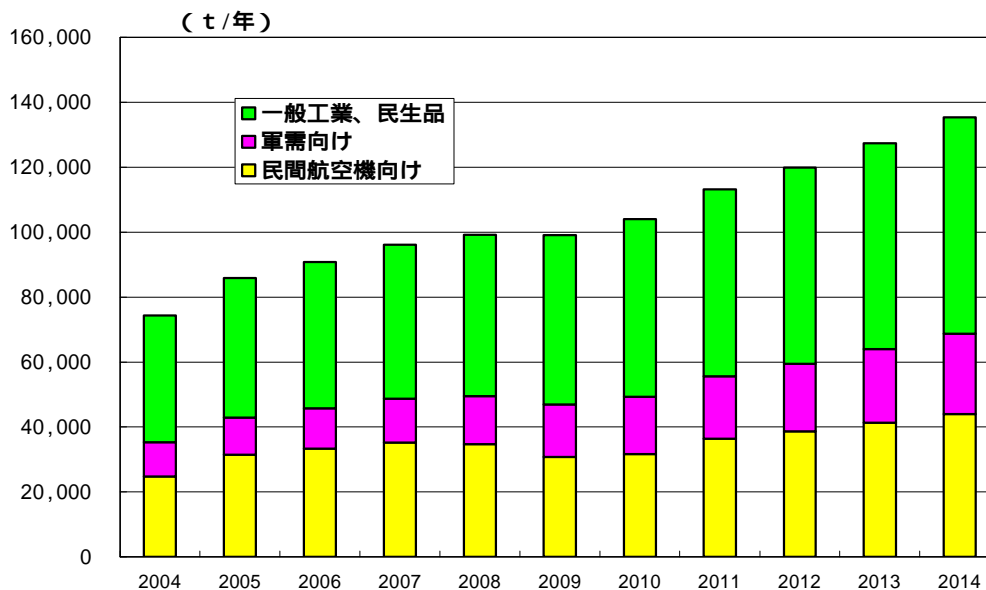
このEB炉は、現在保有しているEB炉よりも大型のインゴットが鑄造可能であり、また大小さまざまなサイズのスクラップを原料として使用できる最新鋭の設備を導入する予定であります。

VAR: Vacuum Arc Remelting (真空アーク溶解)

EB: Electron Beam (電子ビーム)

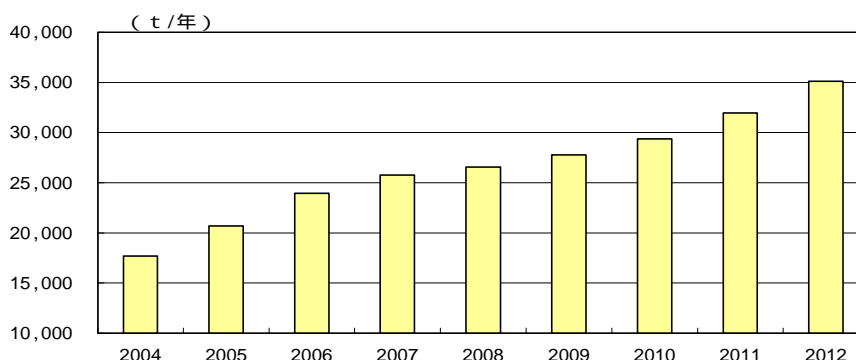
2. 能力増強に至る背景

(1) 世界の展伸材用スポンジチタンの需要予測 (当社推計)



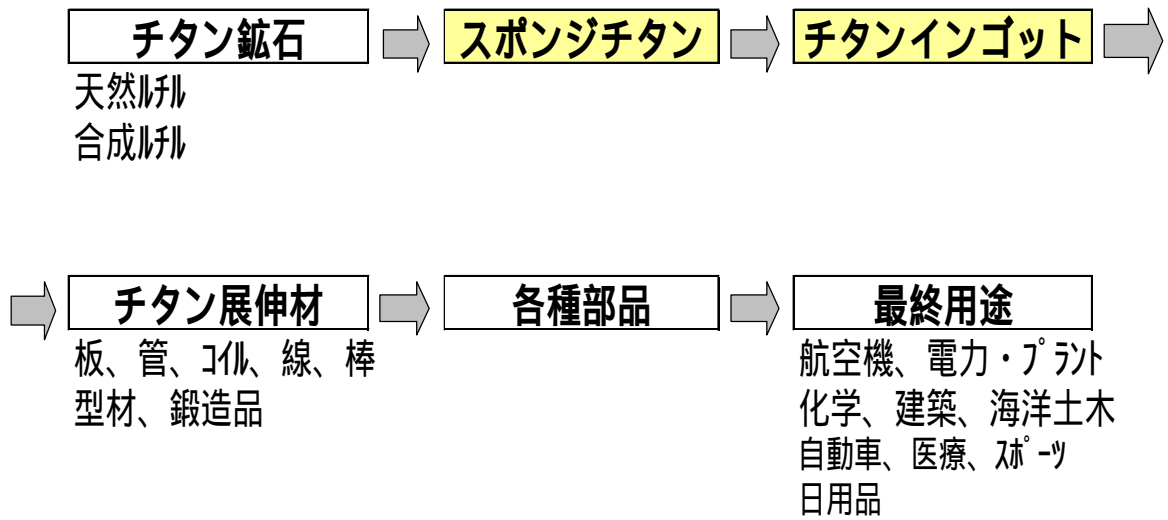
- ・ 航空機需要サイクルにより民間航空機向けは 2008～2010 年にかけて若干減少すると見込まれるものの、その後はチタン使用量の多いエアバス A380 やボーイング 787 等が主力となることから、航空機向けの需要は 2011 年以降増加していくものと予想されます。
- ・ 軍需関連は、JSF (Joint Strike Fighter) 計画に基づき、F35 が 2008 年以降 3,000 機実戦配備される見込みであること、更には装備の軽量化が進んでいることからチタンの使用量は増加傾向にあります。
- ・ 一般工業、民生品向けは、電力、化学プラントや海水淡水化プラント向けが増加しており、堅調な伸びが予想されます。
- ・ 以上のことを踏まえ需給予測を行った結果、2007～2010 年の間は各社の能力増強等もあり、需給のタイト感は薄らぐものと予想されますが、2011 年以降は需要量が大幅に伸張し、極端な供給不足になると予想しております。

(2) 国内インゴット需要予測 (当社推計)

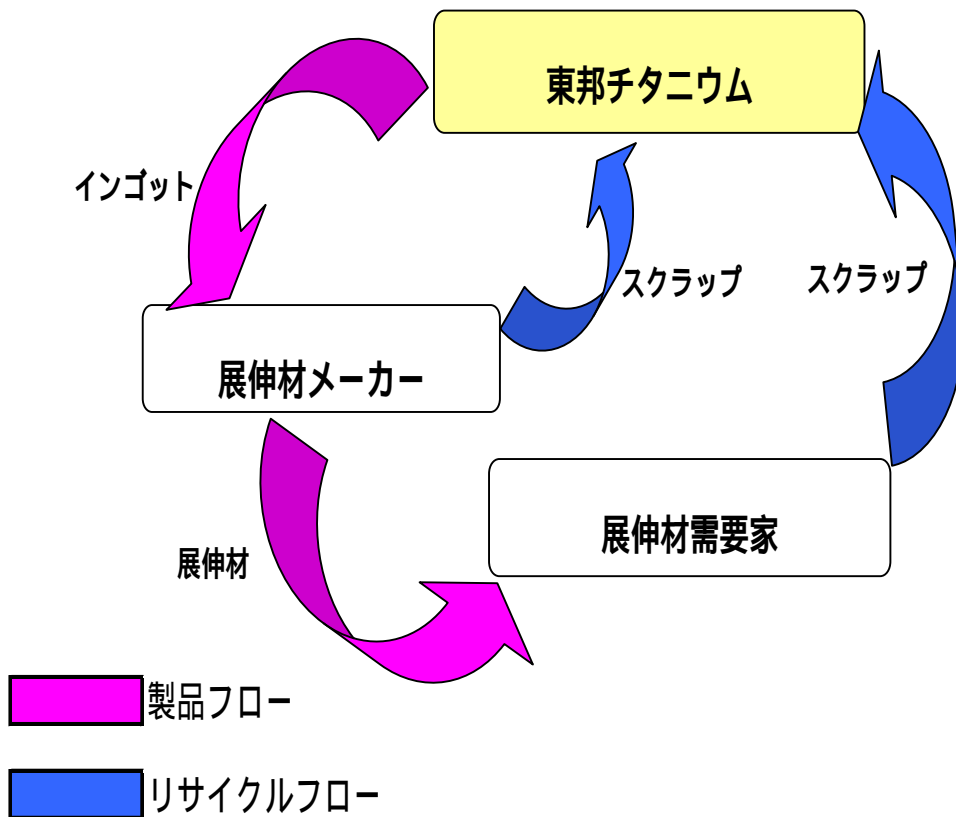


- ・ 現在国内インゴットの生産能力は約 24,000 t/年であり、需要予測から 2007 年には供給能力が不足する状況が発生し、その後不足量が拡大していくと予想しております。

(参考1) 金属チタン関連産業フロー (色付き部分は当社製品)

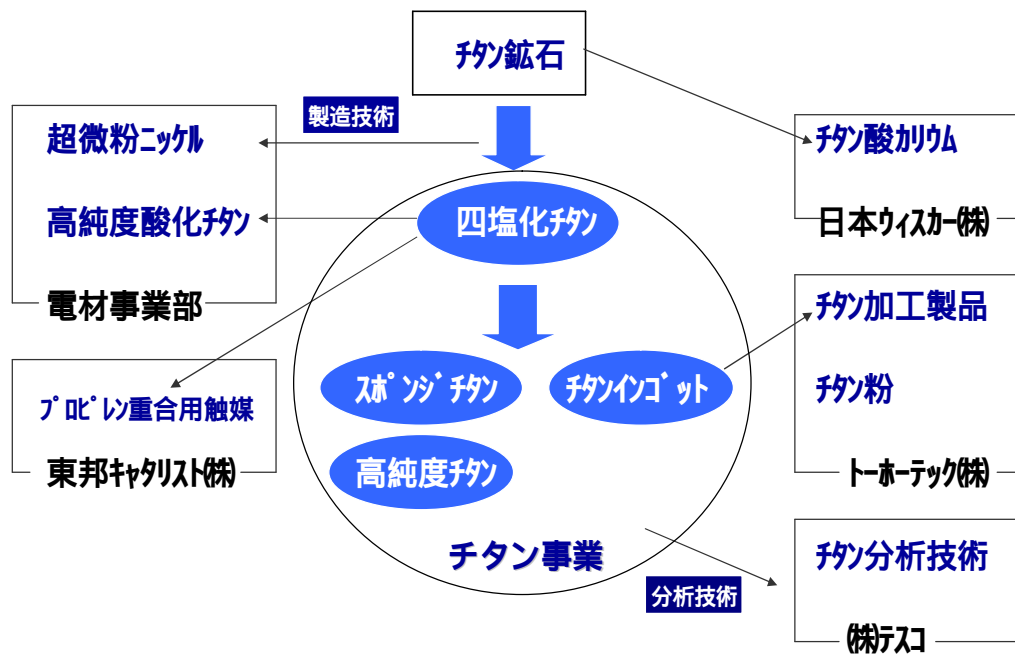


(参考2) チタンスクラップのリサイクル



(参考3) 東邦チタニウムグループの事業及び目標

世界最強のチタン総合メーカーを目指す



以上